

スタートライン

校長 武井 正明

昨日は、皆さんのお家の方の中にも異動があったり、部署が変わったりで緊張の朝を迎えられた方が、いらっしやっただのではないのでしょうか。テレビのニュースはどこを出しても入社式や、年度初めの話題ばかりでした。

通勤経路も昨日までのルートとは、全く別の道を通ってきた方も多かったでしょう。吉田中に転入された教職員の皆さんも昨日、吉中初勤務を終えました。

午前中の会議が終わって、心づくしの歓迎昼食会が開かれました。自己紹介をされながら、新しい方々の心も解れてきたようです。焦らず、徐々に慣れていってください。

午後は、吉中新採用トリオを乗せて燕市役所つばめホールへ。私も含めた4人が、転入・採用教職員の辞令交付式に出席してきました。

私はもう、3人の親のような気分です。でも3人ともしっかりしていて感心しました。

会場に着くと「燕中に新採用していただきました」私の栄中時代の教え子が声を掛けて来てくれました。数秒でバスケ部時代の彼女の面影と、今の笑顔とピントが合いました。立派に成長した教え子と再会できるのは、教師冥利に尽きます。さらに、彼女の方からあいさつに来てくれたことも、とても嬉しいことでした。



辞令交付式では、小林靖直教育長から「皆さんの『個性』を大事にして頑張ってもらいたい。教職でしか味わえないやりがいを、ぜひ感じていただきたいです」と激励の言葉が贈られた。

その後の辞令交付で、ひとりひとり名前を読み上げられ、緊張の面持ちで起立して礼をする3人…そう、この緊張感と、今の気持ちを忘れるなよ。君たちは今、教員人生のスタートラインに立ったところだ。何事も「初心忘るべからず」で頑張っていけ。

そして、佐野大輔市長からは「私は燕の学校教育に近い所にいました。ぜひとも燕市の子どもたちを頼みます!!」と、熱い激励の言葉が贈られた。



見ていたら、早くこの3人を吉中の子どもたちに会わせたくなってきた。悔しいけれど、彼らには、私にはない「とびっきりのフレッシュさ」がある。愛と情熱をもって、子どもたちにぶつかってほしい。大切な何かが見えてくるはずだ。吉中生は、必ず応えてくれる子どもたちばかりですから。